



# 平成28年度 中間決算概況

平成28年11月28日  
株式会社 トーハン

# 目次



1. 決算概況
2. 施策概況
3. 貸借対照表と損益計算書
4. 平成28年度下半期方針

# 1. 決算概況－1



## ◇単体決算

- 総合売上高は215,332百万円、前年比98.7%の減収となりました。
  - 売上総利益は、24,758百万円、前年比99.3%となりました。
  - 販売費及び一般管理費は、全社的なコスト削減で経費の最小化に取り組んだ結果、前年比97.1%と売上総利益の伸長率に比べ2.2ポイント下回りました。この結果、営業利益は3,288百万円で前年比116.7%となりました。
  - 営業外収益と営業外費用を加減した結果、経常利益は2,001百万円で前年比111.1%となりました。
  - 特別利益と特別損失を加減し、税引前中間純利益は2,013百万円、前年比111.7%となりました。  
法人税等調整額増加の影響もあり、中間純利益は1,294百万円、前年比100.4%の減収増益決算となりました。
- B/S面では、自己資本比率は34.4%と、前年より0.5ポイント増加し、全体的な財務基盤は引き続き堅調に推移しております。

## ◇連結決算(連結子法人15社)

- 総合売上高は222,710百万円、前年比98.6%の減収となりました。
- 売上総利益は、30,407百万円、前年比100.9%となりました。
- 販売費及び一般管理費は、前年比99.4%と売上総利益の伸長率に比べ1.5ポイント下回りました。  
この結果、営業利益は2,981百万円で前年比117.4%となりました。
- 営業外収益と営業外費用を加減した結果、経常利益は2,063百万円で前年比152.4%となりました。
- 特別利益と特別損失を加減し、税金等調整前中間純利益は2,056百万円、前年比156.1%となりました。  
親会社株主に帰属する中間純利益は1,290百万円、前年比177.6%で単体決算同様、減収増益の決算となりました。

# 1. 決算概況－2



## ◇部門別の概況

○書籍とMM商品は売上前年比100%をクリアしました。しかしながら雑誌とコミックが前年割れとなり、上半期売上減少の要因となりました。

○書籍は、ジャンル別では児童書(売上前年比109.5%)と学習参考書(売上前年比113.1%)の販売が好調でした。それに加えて「角栄ブーム」の火付け役となった石原慎太郎氏の「天才」やTVで紹介され話題となった「おやすみロジャー」、本屋大賞受賞作の「羊と鋼の森」なども売上に貢献し、書籍の売上前年比は100.2%と前年をクリアしました。

○雑誌は、書店部門・CVS部門共に仕入配本改革を推進し、「前号併売施策」や「時限再販キャンペーン」なども実施しました。売上前年比は前年度上期が94.1%に対し、今年度上期は96.9%となり、返品率は48.2%で前年に対し0.3ポイント改善しました。

○コミック部門は、TONETS iを活用して良好書の獲得に努めましたが、電子コミックの拡大の影響も受け、送品が前年より4.4%悪化し、売上が93.6%となりました。

○MM商品では、「add文具」「nota nova」など「&Partners」の売場を引き続き積極的に拡大しました。さらに出版社やメーカーの協力のもと、トーハン・オリジナル商材の製造・販売に取り組みました。また、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社様とのコラボレーションによって、公式にライセンスを受けた売場の展開にも取り組み、前年を超える実績を上げることができました。

○市場開発部門におきましては300坪を超える大型出店が5軒あった他、M&Aや他業種(家電量販店、ホームセンターなど)との新規取引が増加したことにより、計画を上回る実績となりました。

## 2. 施策概況



### ◇営業重点3施策「TONETS V・スコアVを活用した売場改善」「店頭客注増加」「店頭活性化プロジェクト」

- 3施策全てに取り組んだ書店様のPOS前年比は99.9%で、全国平均を3.1ポイント上回りました。
- 書店スコア60以上の店の送品占有を上期40%以上にするを目標に取り組み、46.2%まで高めました。
- 書店スコア60以上の店は、60未満の店に比べ、POS前年比で1.9ポイント上回り、返品率で10.1ポイント下回りました。

### ◇雑誌対策

- 雑誌仕入配本改革に取り組みました。雑誌の銘柄単位ごとに過去実績・商品特性を加味した「仕入プラン」を策定。一誌ごとの目標設定と仕入進捗検証を行ない、実売率を向上させました。

### ◇CVS(コンビニエンスストア)対策

- 売上規模に応じた品揃え点数に基準を定め、配本を売れ筋に絞り、適量での仕入を行い、シェア80%を占める雑誌の売上を改善し(POS前年比+5.1ポイント)、また各業態に適したオリジナル商品の開発などで全体売上が牽引しました。

### ◇複合売場開発の拡大

- 文具売場開発(add文具)は、文具単品管理システム「V Stationery」の「自動発注機能」で最適な品揃えを実現。また売場分析ツールの開発による全支店での文具研修を実施するなどフォローアップ体制を確立し、この2年間で「add文具」の導入店舗数は約300軒、大型文具売場(「nota nova」)は15軒となりました。

### ◇PI(パブリッシャーズ・インキュベーション)推進プロジェクト

- 上期で約40社からの相談があり、一般紙、業界紙を問わず複数のメディアが取り上げるなど業界初の取り組みとして関心の高いスタートとなりました。上期で9社の取引口座開設に至り、7点の新刊を発行いたしました。

# 3. 貸借対照表と損益計算書



## 中間貸借対照表

平成 28 年 9 月 30 日 現在

【第70期】

(単位:百万円)

資 産 の 部			負 債 及 び 純 資 産 の 部		
科 目	金 額	増減額	科 目	金 額	増減額
資産の部	291,281	-1,326	負債の部	190,951	-2,315
流動資産	190,227	-7,578	流動負債	178,263	-1,968
現金・預金	16,799	-6,279	支払手形	6,313	+113
受取手形	3,320	-25	買掛金	155,846	-1,684
売掛金	105,894	-6,420	短期借入金	1,600	±0
有価証券	29,050	+4,230	未払勘定	6,750	-146
商品	17,894	-562	預り勘定	1,252	-4
短期金融資産	14,600	+1,300	諸引当金	6,128	-67
繰延税金資産	1,405	-223	その他の流動負債	372	-179
その他の流動資産	4,817	+81	固定負債	12,688	-347
貸倒引当金	-3,555	+320	長期借入金	3,400	±0
固定資産	101,053	+6,251	退職給付引当金	6,304	-148
有形固定資産	36,325	-1,221	その他の固定負債	2,984	-198
建物・構築物	13,783	-458	純資産の部	100,329	+988
機械装置	1,569	-246	株主資本	98,769	+1,370
土地	20,239	-2	資本金	4,500	±0
その他の有形固定資産	732	-514	資本剰余金	1,130	±0
無形固定資産	1,699	-804	利益剰余金	94,785	+1,907
投資その他の資産	63,028	+8,278	利益準備金	1,125	±0
投資有価証券	47,447	+6,808	その他利益剰余金	93,660	+1,907
長期繰延税金資産	1,895	-111	自己株式	-1,646	-537
その他の投資等	17,795	+1,777	評価・換算差額等	1,559	-381
貸倒引当金	-4,109	-195	その他有価証券評価差額金	1,559	-381
資産の部合計	291,281	-1,326	負債・純資産の部合計	291,281	-1,326

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間損益計算書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 9 月 30 日

(単位:百万円、%)

科 目	金 額	前年比
売上高	215,332	98.7
売上原価	190,573	98.6
売上総利益	24,758	99.3
販売費及び一般管理費	21,470	97.1
営業利益	3,288	116.7
営業外収益	2,012	84.6
受取利息	262	82.2
その他の営業外収益	1,749	85.0
営業外費用	3,299	97.2
支払利息	16	66.4
売上割引	2,937	97.8
その他の営業外費用	345	94.1
経常利益	2,001	111.1
特別利益	14	147.3
特別損失	2	26.4
税引前中間純利益	2,013	111.7
法人税等	719	140.4
中間純利益	1,294	100.4

## 売上高内訳

(単位:百万円、%)

種 別	金 額	増減額	前年比	返品率
書籍	80,038	+228	100.2	45.9
雑誌	78,865	-2,485	96.9	48.2
コミック	26,949	-1,811	93.6	30.4
MM商品	29,479	+1,303	104.6	13.4
合計	215,332	-2,765	98.7	42.3

株式会社トーハン

# 4.平成28年度下半期方針



## ◇書店の売上最大化

- 営業重点3施策「TONETS V・スコアVを活用した売場改善」「店頭客注増加」「店頭活性化プロジェクト」を継続し、書店スコア60以上店の送品占有を60%以上に拡大します。
- 雑誌の仕入配本改革を推進し、商品情報に基づく、事前シミュレーションによる出版社への部数提案の拡大ならびにメリハリのある配本で、効率的な増売に取り組みます。
- コミック部門は、既刊本対策として、コミュニケーションアプリ「LINEマンガ」と連動し、全国の書店様150店舗を対象にビーコンの仕組みを活用した「LINEマンガ試し読みキャンペーン」を実施。3月末までに300店舗に拡大を予定しています。

## ◇CVS(コンビニエンスストア)対策

- 仕入配本改革の継続・拡大による実績改善と、PB商品開発についても引き続き積極的に取り組みます。

## ◇複合化による「本」の増売

- 文具・雑貨・カフェを中心とした複合売場開発を行い、書店様の売上アップと、利益率の向上を目指し、引き続き「add文具」「nota nova」などの「&Partners」の施策を推進します。
- MVPブランド商品開発を積極的に進め、製造卸機能を強化してまいります。

## ◇PI(パブリッシャーズ・インキュベーション)推進プロジェクト

- 引き続き現在取引のない出版社様の新規参入を支援するとともに、取引を開始した出版社様を多面的にサポートしてまいります。

## ◇業界課題への対応

- 輸送問題の対応策・・・11月1日に輸送対策室を新設し、輸送問題の対策に取り組みます。  
自社配送エリアの協業化や、業量平準化などの対策を進めます。